

介護現場における生産性向上について

介護現場の生産性向上の推進の必要性

- 2025年には団塊の世代が全員75歳以上となり、更にはその先の2040年にかけて、認知症の有病率や要介護認定率が他の世代と比較して相対的に高い85歳以上人口が急増することから、介護サービスの需要は更に高まることが見込まれている。増加するサービス需要に対応する介護職員の数について、第8期介護保険事業計画の介護サービス見込み量に基づき、都道府県が推計した必要数を集計すると、2040年度には2019年度比で約69万人増の約280万人となっている。
- 一方で、2025年から2040年にかけて、生産年齢人口は急激に減少することが見込まれている。既に介護現場の人手不足が指摘されている中で、介護分野のみならず全産業的に人材確保が大きな課題となることが見込まれる。とりわけ、現役世代が流出する地方ではますますこうした問題が深刻になる可能性がある。
- 介護人材の不足は、介護サービスの供給を制約する要因となることから、喫緊の対応が必要である。これまでも処遇改善やマッチング支援、介護のしごとの魅力発信などの総合的な人材確保策に取り組んできたが、これと並行して、介護現場において、テクノロジーの導入等により質を確保しつつ効率的なサービス提供を行うとともに、介護職員が行うべき業務の切り分けや、事務処理等の職員負担軽減を徹底し、介護職員が専門性を生かしながら働き続けられる環境作りを早急に進めていく必要がある。

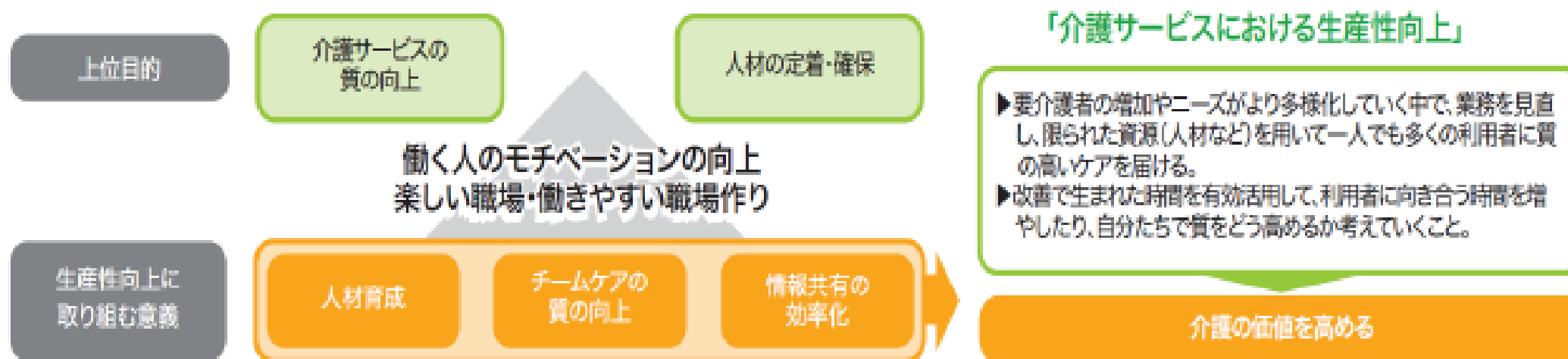
介護現場における生産性向上（業務改善）の捉え方

一般的な生産性向上の捉え方

- 業務のやり方を工夫することで、現在の業務から「ムリ」「ムダ」「ムラ」をなくし、業務をより安全に、正確に、効率的に行い、負担を軽くすることが目的
- Output（成果）/Input（単位投入量）で表し、Process（過程）に着目



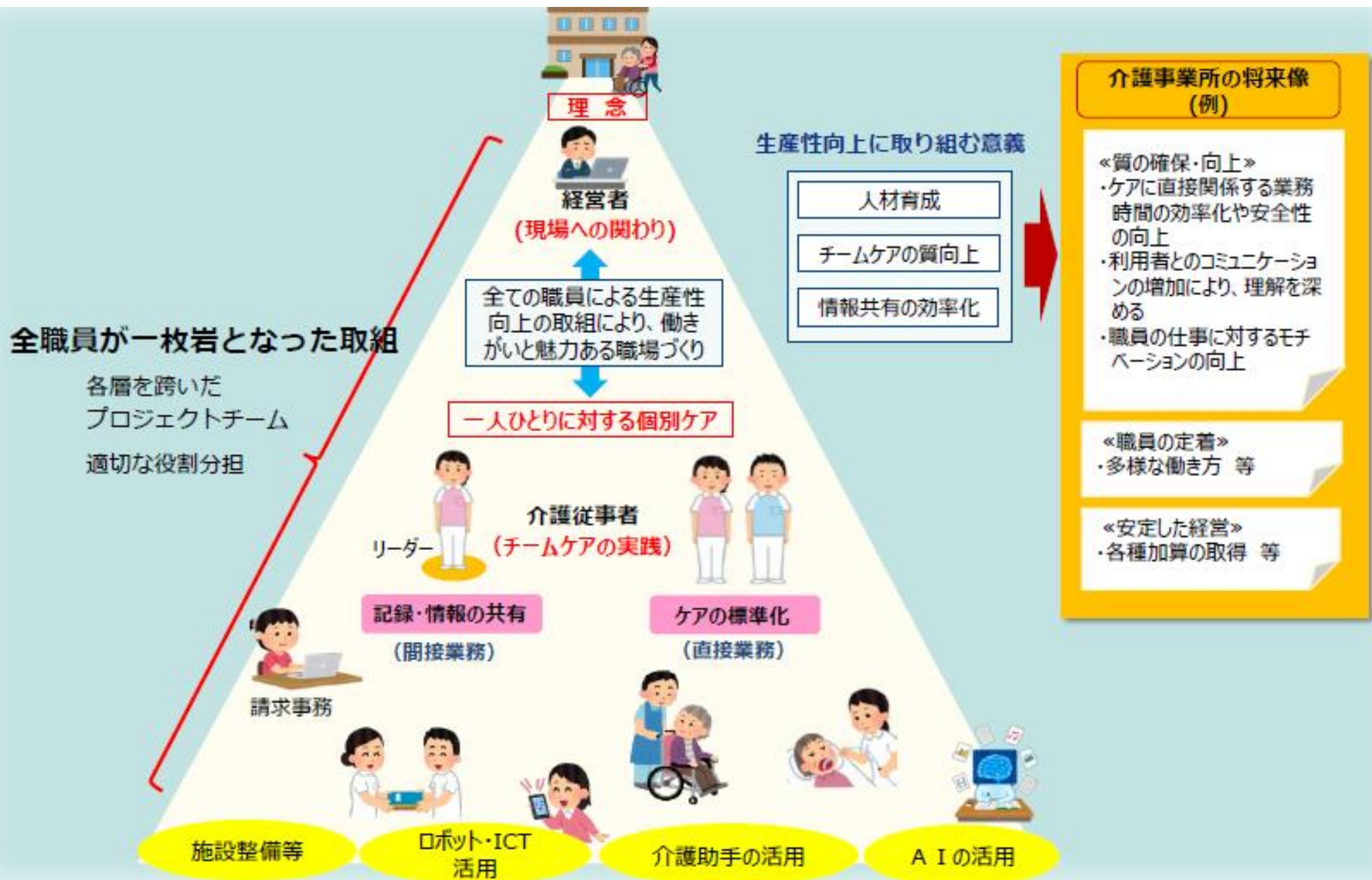
介護サービスにおける生産性向上の捉え方



出典：厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室

- 要介護者の増加やニーズがより多様化していく中で、業務を見直し、限られた資源(人材など) を用いて一人でも多くの利用者に質の高いケアを届ける。
- 改善で生まれた時間を有効活用して、利用者に向き合う時間を増やしたり、自分たちで質をどう高めるか考えていくこと。

介護現場の生産性向上がもたらす将来のイメージ



介護現場における具体的なニーズ

- 職員の士気向上と維持
- 現場の整理整頓
- 職員間のスキルレベルの差を埋めたい
- スタッフの教育プログラム、評価システムの確立
- 送迎業務の適切な人員配置の設定
- サービスの質を改善し、人材確保につなげたい
- 業務負担の軽減と効率化
- 記録様式にICTを導入して効率化したい
- ハラスメントの防止
- 書類のファイリングの整理
- 作業の効率化（定時の勤務時間内に事務作業ができない）

※介護現場における生産性向上の取り組みを推進するにあたり、複数の現場管理者からのヒアリングを基に整理